

ゆうゆうじてき

浅田和夫

(前小平町議会議員)

昭和7年2月に農業を営む5男1女の4男として遠別町で生を受け、80年の月日が流れようとしています。

昭和20年6月、遠別国民学校高等科在学中に、少年航空兵として志願し、旧留萌小学校において合宿訓練を行っておりま

したが、ほどなく終戦を迎え、故郷の遠別町へ帰省いたしました。

帰省後は、戦後の学制改革に伴い遠別中学校へ編入することとなり、卒業時には卒業番号第1号となったことは今でも覚えています。

その後しばらくの間、家業に従事していましたが、昭和25年に遠別町役場へ奉職することとなり、昭和27年には当時の北海道自治講習所へ1年間入所する機会も与えられ、地方自治の勉学に励むことができました。

◆小平町役場へ奉職◆

昭和36年11月、11年間勤めた遠別町役場を退職し、小平町役場へ奉職することとなり、以来退職する28年間の中でも社会教育分野では9年間勤め、青少年の健全育成等に関わらせていただきました。



奉職当初は産業課勤務を命ぜられ、同年1月に公益法人として設立された小平町商工会へ経営指導員として派遣されることとなりましたが、当時を振り返れば、国道232号線拡張工事に伴い、店舗

移転改修資金借入の手続きに何度も札幌まで足を運び、慌ただしく奔走し

たことを思い出します。

また当時、手続きの審査や色々とお手伝いくださった道庁の担当者とは、その後も公私共に懇意にさせていたでいておりました

が、昭和51年の道庁爆破事件により、その友人が片腕を失う重傷を負ったことは、今でも忘れられない出来事として胸に

刻みこまれていきます。

◆スポーツ振興に携わって◆

私は若い頃から、体を動かすことが大好きで、特に野球については生涯の趣味としてこよなく愛しております。

そのようなこともあって、現在の町体育協会並びに町軟式野球連盟発足当初の事務局員としてスポーツ振興に携わる機会に恵まれ、昭和52年には町軟式野球連盟会長、平成18年からは北海道軟式野球連盟留萌支部長という大役を仰せつかりました。

当時、町内には多目的に使用できるグラウンド

がなかったことから、広く町民が利用できるグラウンドの整備を求める要

請活動を精力的に行い、昭和57年に現在の海洋センターグラウンドが完成した時には、とても感慨深いものがありました。

今日では町内の行事はもとより、管内・全道大会などにも広く利用され、グラウンドで懸命に汗を流す選手の姿を眺めることが、この上ない喜びとなっております。

◆感謝◆

平成19年には、1期4年という期間でございましたが、町議員として町の予算編成や政策に微力ながら携わることができましたことは、ひとえに町民皆様のご支援とお力

添えによるものであり、改めて感謝申し上げます。

在任中、町内6地区を巡回して行った議員と町民との住民懇談会は、町民の声を拾い上げる有意義な場であると考えておりますので、これからも

精力的に開催されることを願っております。

◆人との関わり◆

おかげさまをもちまして、80歳を迎えようとしても、学校の夏休みを利用してのラジオ体操や海洋センターで行われるスポーツレク大会には主催者として参画させていただいておりますので、これからの町民の皆様と関わりを持てることを切に願っております。

最後にこれまでたくさんの方々とお会い、交流を持たれたことを人生の宝と想いながら、残りの人生を歩んで行こうと思っておりますので、これからも末永いご厚誼をお願い申し上げます。

◆◆◆

許してください。

(西 埜)

あとがき

今朝も、けあらしが流れる厳寒の海の食材、銀杏草の繁茂期がやって来た。「仏の耳」とも呼ばれる多くの人達に人気の貴重な海の幸である。

採集する姿も昔日のままで、この近海ならではの厳冬の風物詩である。

お決まりの味噌汁の味、とろりとした感触と漂う台所の香りは、北国特有の雰囲気醸しだしてくる。

前浜の海を見つめる老漁夫の眼に、北国の春はすぐ近くまで来ている。

(村 井)

●発行 小平町議会
●編集 議会広報発行 特別委員会
〒078-1330 留萌郡小平町字小平 町二一六
Tel (0164) 五六-2211